

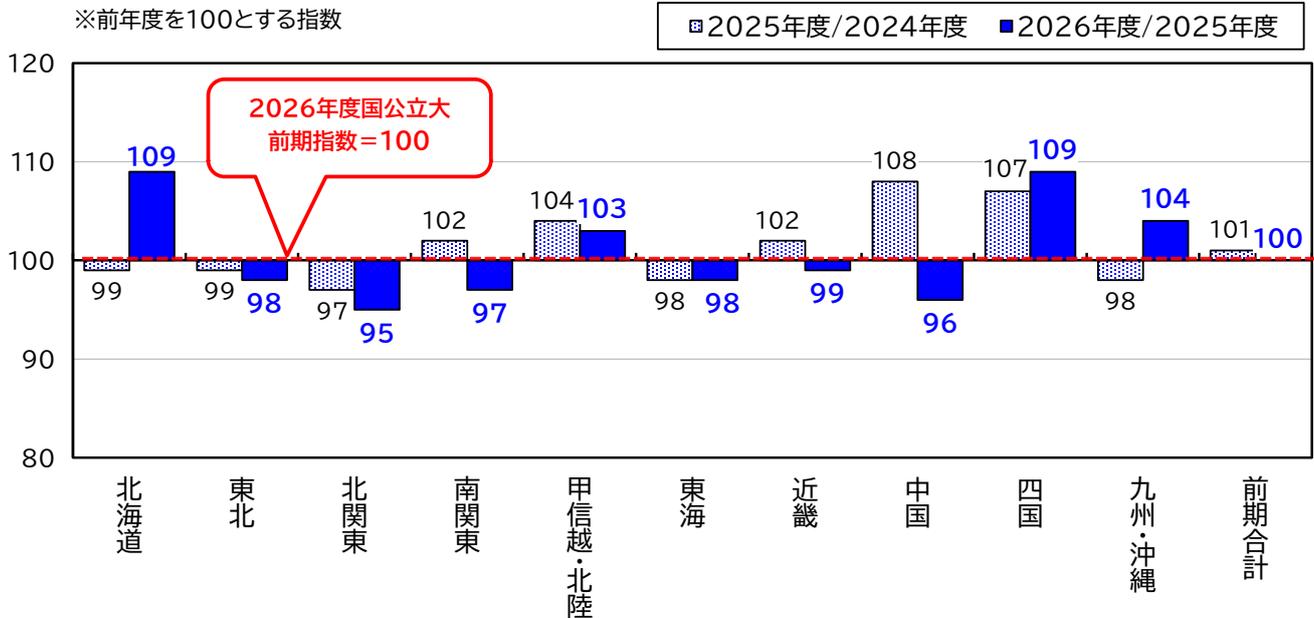
※本文内の()内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎地区別志願状況

□前期は北海道、四国で増加、九州・沖縄でやや増加、北関東でやや減少
 四国は前期、後期ともに 3 年連続増加

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>

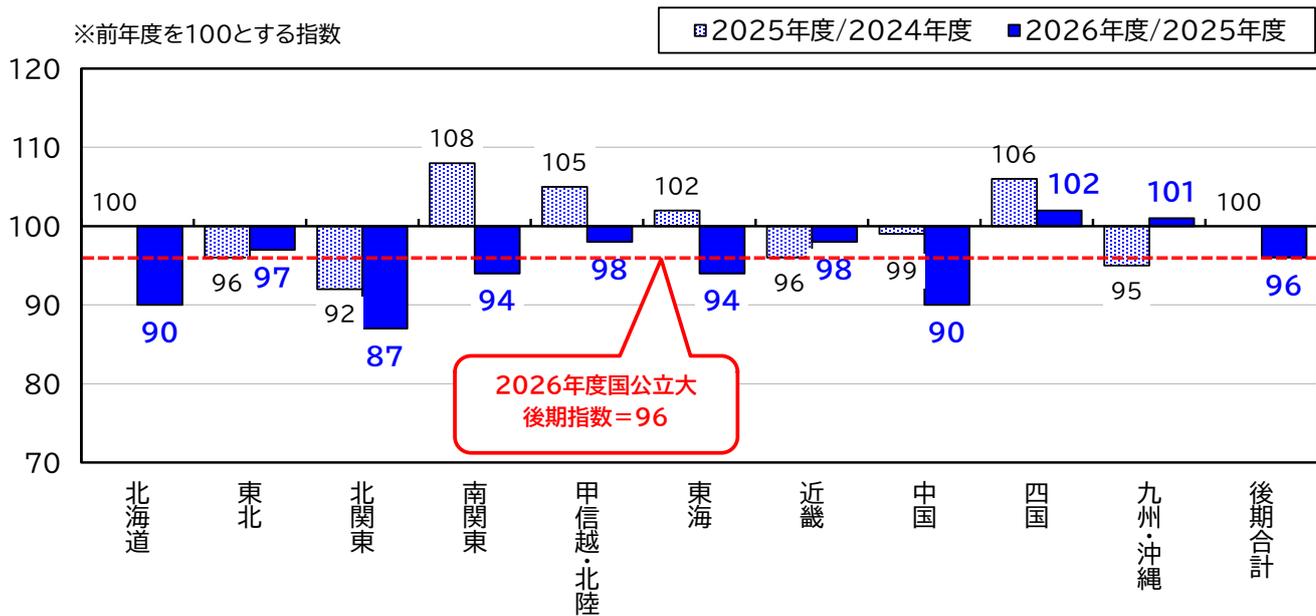


前期は、北海道(109)は増加、四国(109)は 3 年連続増加、九州・沖縄(104)はやや増加、甲信越・北陸(103)は2年連続やや増加でした。一方で、北関東(95)は2年連続やや減少、中国(96)、南関東(97)もやや減少でした。東北(98)、東海(98)、近畿(99)は前年度並でした。

北海道(109)は共通テストの地区全体の志願者数は前年度から-1.2%と、東北に次いで減少が大きい地区でしたが旭川医科大(136)、北見工業大(134)、釧路公立大(134)、旭川市立大(133)、室蘭工業大(122)、公立千歳科学技術大(120)、帯広畜産大(119)の7大学で大幅増加、四国(109)も愛媛県立医療技術大(153)、鳴門教育大(148)、徳島大(131)の3大学で大幅増加でした。

一方で、南関東(97)、近畿(99)は前年度まで4年連続微増でしたが、減少に転じました。共通テストの平均点ダウンによる安全志向で大都市圏を避けて北海道、四国等の国公立大を志願する動きが読み取れます。

<後期日程>



後期は、北関東(87)、北海道(90)、中国(90)は減少、南関東(94)、東海(94)、東北(97)はやや減少、甲信越・北陸(98)、近畿(98)は微減でした。増加は四国(102)、九州・沖縄(101)のみでいずれも微増でした。四国は、前期、後期ともに3年連続の増加です。なお、募集人員も四国を除く地域で減少しています。北海道では旭川医科大・医の後期廃止のほか、人気の低いメディカル系での志願者数減少、北関東では募集人員の多かった茨城大・教育、群馬大・共同教育の後期廃止、中国では広島大・法などの後期廃止が響き、地区全体の減少となりました。一方で、四国は後期縮小や廃止の動きが小さかったことから前期同様に増加傾向が続いています。九州・沖縄では佐賀大・医の後期廃止がありましたが、地区全体としては微増でした。